

総括 (全39項目)

全39項目のアクションプランについて、実行支援チームを編成し、それぞれの目標の達成を目指して取り組みを進めている。第4期計画期間中は、新型コロナウイルス感染拡大により、各分野の取り組みは大きな影響を受けてきたが、感染状況の落ち着きとともに、明るい兆しも見えてくる。特に、農・商工業分野では、栗や豚をはじめ地域資源を活用した商品開発や加工施設の整備が進み、生産量や売上額が増加しており、観光分野では、「星ふるヴィレッジTENGU」や「フォレストアドベンチャー」、「ログスパークシーサイド高知須崎」など、魅力的な観光拠点の整備が進み、交流人口の拡大につながっている。今後とも、市町村と連携し、各地域アクションプランの取り組みの改善や見直しを行うことで、雇用の創出や所得の向上を目指す地域主体の取り組みを後押ししていく。

これまでの取り組みの成果等

◎各分野の取り組みの成果と今後の方向性

■農業分野

<成果>

- 環境制御技術の導入などにより、ミウガの品質の向上や生産拡大につながり、消費宣伝効果も含め過去最高の売上高を達成している。
- 畜産関係は、計画的に生産基盤が整備され、衛生管理の向上、加工品の売上額の増加につながっている。

<今後の方向性>

- さらなる生産拡大やコストの削減に向けて、環境制御技術の導入促進や、燃油や肥料の高騰対策、ヤシガラ資材のストックヤードを整備するとともに、県内外と連携して消費拡大に取り組む。
- 「四万十ポーク」の品質の向上や地域・産地のまとまりを強化し、地域団体商標登録の取得など、さらなる認知度の向上を目指す。

■林業分野

<成果>

- 津野町では、県外市場に出荷されていた原木が、町内の山元貯木場の集荷体制が定着したことで、原木出荷量が増加し目標を大きく上回った。また梶原町では、営業活動や、県外工務店の施主を招いた産地見学会の開催によりFSC材の出荷増につながった。

<今後の方向性>

- 自伐林家に対して、作業道の開設、機械のレンタル等の支援を継続的に実施する。
- バイオマス発電用チップや製紙用チップの出荷先への安定的な供給体制を確保する。

■水産業分野

<成果>

- 浦ノ内産の養殖マダイは、業務需要の減少や餌代の高騰など厳しい状況が続いているが、加工施設の拡張による生産体制を強化するとともに、ふるさと納税やECサイトなど、新たな販売チャンネルを確保し、加工需要に対応している。

<今後の方向性>

- 安定的な生産供給体制の確保や、業務需要への営業活動の再開などにより、製造コストの削減と収益性の高い加工品の販売拡大に取り組む。

■商工業分野

<成果>

- 加工施設の整備など生産体制が強化され、ADの活用による商品開発、外商活動の強化など、ハード・ソフト両面の取り組みにより、売上額が増加している。

<今後の方向性>

- さらなる売上の増加や集客につなげていくため、引き続き、商品開発や外商活動の強化に取り組み、イベント開催や周辺の観光施設、商店街と連携を強化し、相乗効果を図っていく。

■観光分野

<成果>

- 広域観光組織の体制強化や、産官学金言が連携した「海のまちプロジェクト」がスタートしたほか、「ログスパークシーサイド高知須崎」、「星ふるヴィレッジTENGU」など、滞在型・体験型観光の拠点が順次整備され、交流人口の拡大につながっている。

<今後の方向性>

- (一社)奥四万十高知を中心に、インバウンドも見据えた商品造成や、周遊プランの充実、おもてなしコンシェルジュの育成など、観光資源を組み合わせた滞在型観光を強化し、地域の経済波及効果につなげる。

◎地域アクションプランによる雇用の創出 (R2~R4) 45人

主な取り組み事例

農業 林業 商工業 観光

※○囲み数字は時点を表す例) 令和5年度 = ⑤

No.1 くろしおミウガ生産拡大クラスタープロジェクト

地域:須崎市、中土佐町、津野町
実施主体:JA土佐くろしお、須崎市、中土佐町、津野町、(株)E-システム



- 取り組みの内容
- ヤシガラ培地活用施設(ストックヤード)の活用
 - ミウガ料理メニューの提案や、消費宣伝活動
 - 収量・品質の向上に向け栽培講習会、試験園の設置

- 主な成果
- 新規雇用者数(累計):① - - - ②~④累計6名 → ②~⑤累計6名 (見込)
 - メニューの定番化(累計):① - - - ②~④累計14品 → ②~⑤累計14 (見込)
 - 生産拡大面積(累計):① - - - ②~④累計29a → ②~⑤累計54a (見込)
 - 出荷量:①3,614t → ④3,660t → ⑤3,800t (見込)

- 今後の方向性
- 生産拡大に向けたハウス等の整備
 - 収量、品質の向上に係る試験等の実施

No.13 津野町森林・林業再生プロジェクト

地域:津野町
実施主体:津野町森林組合、(株)中成、津野町



- 取り組みの内容
- 出荷者への木材価格の動向と有利な採材方法の情報を提供
 - 林業機械のレンタル費用の補助による自伐林家への支援
 - 大型フォワーダの導入

- 主な成果
- 山元貯木場木材取扱量: ③25,358m³ → ④40,544m³ → ⑤38,000m³ (見込)

- 今後の方向性
- 高性能林業機械の導入による生産の効率化の推進
 - 自伐林家への継続した支援による原木の増産
 - 林業事業者等への情報提供による出荷の働きかけ

No.31 浦ノ内マリパークにおける交流人口の拡大による地域の活性化

地域:須崎市
実施主体:須崎市、(一社)須崎市観光協会、NPO法人すさきスポーツクラブ、指定管理者、その他関係事業者等



- 取り組みの内容
- 野外体験施設(ログスパーク)のオープン
 - 海のまちプロジェクトと連携した海のまちマルシェの開催
 - 教育旅行の受け入れ

- 主な成果
- 交流人口:②8,201人 → ④:66,439人

- 今後の方向性
- 合宿等のプロモーション、定着に向けた活動
 - 教育旅行等の受入態勢の強化 (関西方面へのPR強化)
 - スポーツツーリズムによる県外来場者の周遊促進の検討・実施

No.8 四万十のうまい豚クラスタープロジェクト

地域:四万十町
実施主体:四万十ポークブランド推進協議会、(農)平野協同畜産、(有)渡辺畜産、(株)山中畜産、(農)四国デュロックファーム



- 取り組みの内容
- ブランド化に向けた商標取得 (ロゴ)
 - 商談会出席等の外商による販売の拡大
 - 精肉加工場兼直販所の整備
 - 畜舎の整備及び機械化(給餌、清掃)による作業効率の改善

- 主な成果
- 加工品売上高: ③9,202万円 → ④1.35億円
 - 母豚数: ③477頭 → ④498頭 → ⑤498頭 (見込)
 - 出荷頭数: ③9,693頭 → ④11,269頭 → ⑤11,000頭 (見込)

- 今後の方向性
- 飼料コスト削減、生産性向上などによる経営体質強化
 - 地域団体商標取得等による「四万十ポーク」のブランド価値の向上及び販売の拡大

No.19 中土佐町SEAプロジェクト

地域:中土佐町
実施主体:(株)SEAプロジェクト、中土佐町



- 取り組みの内容
- 各種フェア、イベント等による賑わいづくり
 - キャンペーン等の周辺施設との連携
 - 店舗の魅力向上による集客力強化
 - オリジナル商品の開発と販路開拓

- 主な成果
- 年間売上額: ③2.8億円 → ④3.0億円
 - 商品開発数: ③ - - - ④6点 → ⑤7点 (見込)

- 今後の方向性
- 商品の安定供給に向けた出荷者との連携強化及び掘り起こし
 - イベント開催等によるテナント店との連携・協力体制の構築
 - 周遊プラン等による中心商店街や周辺施設との連携

No.35 四国カルストを核とした交流人口の拡大と地域の活性化プロジェクト

地域:津野町
実施主体:津野町、(一財)天狗荘



- 取り組みの内容
- 星ふるヴィレッジTENGU、遊山四万十せいらんの里、カルストテラスのリニューアルオープン
 - キャンプ場、バンガローの整備

- 主な成果
- 天狗荘の年間宿泊者数:③7,646人 → ④9,627人
 - 四国カルストの入込者数:③75,012人 → ④176,989人

- 今後の方向性
- 受入態勢強化のための人材確保及び育成
 - 地域資源を生かした観光商品の造成と磨き上げ

高幡地域アクションプラン 実行3年半の取り組みの総括（案）（2/2）

第4期計画で設定した数値目標に対する評価

R5数値目標に対するR5年度末見込みまたは直近の実績の達成状況により5段階評価を実施

※1つの地域アクションプランで複数の数値目標を設定したものもあるため、下記の件数と地域アクションプランの数とは一致しない

区分	数値目標に対する評価基準	件数	構成比
S	数値目標の達成率 110%以上	13件	21.3%
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満	5件	8.2%
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満	9件	14.8%
C	数値目標の達成率 70%以上85%未満	13件	21.3%
D	数値目標の達成率 70%未満	21件	34.4%
評価計		61件	100%
—	実績値がまだ出ていないなどの理由で現時点の評価ができないもの、または目標の設定がないもの	1件	

主な支援策の活用状況（R2～R4）

① 高知県産業振興推進総合支援事業費補助金	8事業	94,190千円
② 高知県観光施設等緊急整備事業費補助金	6事業	441,616千円
③ 高知県地域観光振興交付金	3事業	125,985千円
④ 専門家の派遣（産業振興アドバイザー事業）	26件	138回



○星ふるヴァレヅTENGU
R3.7月リニューアルオープン
地域AP No.35
〔R2～3年度観光交付金〕



○ロゴスパークンサイド須崎
R4.2月オープン
地域AP No.31
〔R2～3年度観光補助金〕



○キジ肉加工施設
R4.4月稼働開始
地域AP No.3
〔R4年度産振補助金〕

課題の克服やさらなる成果の拡大に取り組む主な重点項目

項目	見えてきた課題・方向性	さらなる挑戦
No.6 四万十のうまい栗・芋クラスタプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 需要の高まりに反して加工原料が不足 栗は、生産者の高齢化はもとより、傾斜地など立地条件の悪い園地が多く、生産量の確保が積年の課題 そのため、中山間地域の複合経営品目として有望な人参芋を加えて商品開発や販売拡大をスタート。 拡充した「芋」を含めた商品構成の見直しや新たな商品開発などにより、加工場の通年稼働を確保し、中山間地域の所得向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎関係者と連携した原材料の確保 ・生産から流通販売に至る関係者を巻き込んだ連携強化 ・生産法人や地域の人材派遣団体と連携した栗の新改植を計画的に推進 ・研修生の受入等を通じた担い手の育成 ◎製造・販売の拡大 ・消費者ニーズを捉えた商品開発と販売拡大 ⇒四万十栗の希少性を高める販売展開（新栗の季節限定販売、自社ECサイト限定商品 など） ・安定的な生産確保と通年で販売できる商品群のラインナップ ・生産部門と営業部門の連携強化
No.23 津野町地産地消・外商販売戦略	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者の高齢化により、出荷量が年々減少 ・道の駅布施ヶ坂のリニューアル（R3年度）により販売を強化しているが、他の直販所を含め、店舗の集約やリニューアルなど全体最適を検討し、バージョンアップを目指す。 ・「満天の星」は、ブランドのさらなる磨き上げと「星ふるヴァレヅTENGU」をはじめ観光施設や関係機関との連携強化が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎出荷量の確保と津野町産品の地産外商を強化 ・直販所営農コーディネーターや関係機関による生産指導 ・関係者間で直販所等に係る情報を共有し、専門家を交えたコストの見直しや収益の向上を図る。 ・売れ筋商品に注力した商品の見直しや商品力を強化する。 ・四国カルストや主要な観光施設との連携を強化し、周遊促進や売上向上につなげる。
No.24 四万十町地域資源活用推進と豚まん加工場等の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・繁忙期（秋冬）を除く工場の稼働率の向上や出荷調整など、1年を通じた安定的かつ計画的な生産体制を確保する必要がある。 ・販売拡大に向けた新商品の開発 ・保存料、甘味料等不使用や地域食材の活用など自社製品の強みをふまえた営業活動の強化 ・効果的な情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ◎加工場の稼働率向上と販売拡大 ・中期での販売戦略の策定 ・春夏向けの新商品の開発 ・卸売会社と連携した新規取引先（生協等）の開拓 ・OEM製造の受入検討（PB） ◎地場産業振興センターとしての機能強化 ・地域の事業者と連携した新たな地域資源の掘り起こしと地産地消・外商の強化 ・町産品販売サイトの運営や「道の駅」を活用した情報発信の強化
No.30 須崎市海のまちプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・「須崎大漁堂」や「海のまち須崎駅」など主要施設のオープンやイベント開催等により来場者は増加。 ・R5年度中に「須崎サカナ本舗」のオープンも予定されており、「須崎大漁堂」や「海のまちマルシェ」、「浦ノ内マリンパーク」など周辺施設等と連携して、交流人口の拡大につながっている。 ・一方、通過型から宿泊を伴う滞在型観光へのシフトなど、地域の消費額の向上につながる取り組みや、多くの来場者に対応できる受入態勢の強化が必要となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎エリアリノベーションの推進 ・空き家・空き店舗の活用検討 ・宿泊施設についての企画検討（ゲストハウス） ・須崎大漁堂やサカナ本舗、商店街、宿泊施設を連動させた一連の取り組みによる誘客を検討・実施 ・魚市場、図書館等複合施設と連携した取り組みの検討・実施 ◎受入態勢の強化 ・人材育成の検討 ・旅行会社等と連携した旅行商品の企画検討 ・須崎市内外や奥四万十エリアの関係者との連携や積極的な周遊促進への取り組み強化
No.33 梶原町の体験型・滞在型観光の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・太郎川公園再生計画における、ホテル・レストラン・道の駅についての基本構想を策定。 ・今後の円滑な基本・実施設計の策定に向けたスケジュールの見直しや進捗管理、オープンを見据えた運営管理等を検討・決定する組織体制の構築 ・町内外との連携や受入態勢（人材育成）の強化が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎受入基盤の整備 ・R9年度のオープン（ホテル、レストラン、道の駅）を目指した受入基盤の整備と態勢の強化 ◎観光資源の磨き上げ ・太郎川公園再生計画の一環としてリニューアルしたキャンプ場や湿性植物園、カフェ等を活用した賑わいづくりや、森林アスレチックをはじめとする体験プログラムの提供 ◎受入態勢の強化 ・施設運営に係る人材育成 ・森林セラピーガイドの育成、スキルアップ ・梶原ならではの地元食材（牛肉、キジ、アメゴ、ワイン等）を活用したメニューの検討 など